

こおりやま広域圏
わかものボーダレスプロジェクト
2023

KORIYAMA KOUIKIKEN



かっこいい大人、 いました



こおりやま広域圏とは

郡山市を含む近隣市町村では、住民が引き続きそれぞれの地域で生活できるように利便性を向上させ、将来にわたって豊かな地域として発展していくことを目指し、「こおりやま広域圏連携中枢都市圏(こおりやま広域圏)」を形成しています。

各分野でのネットワークを構築し、それぞれの強みや地域資源を生かして、地域課題を解決する取組みを行っています。

こおりやま広域圏マップ



- ▼ 構成:5市8町4村(中心市:郡山市)
- ▼ 人口:約72万人(福島県の約1/3)
- ▼ 面積:約3,372k㎡(福島県の約1/4)
- ▼ 構成市町村:郡山市、須賀川市、二本松市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町、磐梯町

「こおりやま広域圏わかものボードレスプロジェクト2023」とは?

本プロジェクトでは、「地域に眠った『カッコいい大人』を発掘し、発信せよ!」というミッションの元、有志が集まった高校生10名が、約5ヶ月間に渡って、自分の興味関心を深掘るワークショップや、地域で活動している『カッコいい大人』へのインタビュー、学生視点でのインタビュー記事・冊子の作成、これらの取り組みを通じて得たまちづくりに対する気づきの発表、などを行います。

この冊子では、高校生10名が出逢った『カッコいい大人』に、実際にインタビューをして執筆した記事をまとめています。

皆さんがこの冊子を通じて、新たな地域の魅力に気づいていただけたら嬉しいです。

高校生メンバー紹介

チーム名	くとうてん 句読点	あゆのつるぎ 亜結之剣	チーム名	パズル
	<ul style="list-style-type: none"> いがらし まどか ●五十嵐 円香【郡山東高校2年】 おみの かほ ●小美野 香帆【郡山高校2年】 つちだ さゆり ●土田 紗友莉【尚志高校2年】 かわな ゆうき ●川名 悠輝【本宮高校2年】 	<ul style="list-style-type: none"> くらかね まな ●倉兼 愛【郡山高校2年】 まつい るな ●松井 瑠南【郡山東高校2年】 さとう ゆうき ●佐藤 結輝【尚志高校2年】 		<ul style="list-style-type: none"> すどう のぞみ ●須藤 希海【須賀川桐陽高校2年】 わたなべ みずき ●渡部 瑞希【日本大学東北高校1年】 かべやさわ ともや ●壁谷沢 知哉【尚志高校2年】

伴走者紹介



株式会社エフライフ 小笠原 隼人 大川 翔 宗近 翼 滝口 杏 郡山市政策開発課 Z世代活躍係 岩浪 正人 松本 ちひろ 風張 達也



(株)ケイリーパートナーズ
2hours

鷺谷 恭子さん

Kyoko Washiya

五十嵐 円香(以下、円香) 鷺谷さんがやっている仕事について教えてください。

鷺谷さん 経理やSNS運用代行など企業さんのサポート役となるような仕事をしています。また、それを担う弊社スタッフは、全員が女性で、私を含め、ほとんどが子育て真っ最中のお母さん方なんです。

円香 今の事業を始めようと思った理由はなんでですか。

鷺谷さん 震災後、ボランティアで、子育て中の女性を支援していた時に、「働きたい。でも働ける場所がない。」と悩んでお母さん方がいたんです。その一方で、事業をされている方とお話したときに、「福島の実業を盛り上げたいんだけど、人手がいなくて困ってるんですね」という悩みを皆さん話していたんです。ここで、すごいミスマッチがあるんだろうなって感じました。そのあと、起業向けの講座などに参加して、若干

躊躇や迷いはありましたが、必要性や社会性を話して、それに対して応援してくれる方がいらっしゃったので、起業に向けた覚悟も決まってきました。

円香 起業をすると決まってからくじけそうになることもあったと思うのですが、どう乗り越えてきましたか。

鷺谷さん 会社の組織として立ち上げていくところが、すごく大変でした。ボランティア活動を通じて痛感した課題から事業化したということで社会性はあるんです。ただ、「ここで働きたい」と希望してくれたお母さんたち全員を迎え入れて、ゼロからスキルアップできる環境を作ったので、利益を出せる事業になるまでは時間がかかりました。

持続可能な経営への道筋に少しずつ光が射し始めたように感じたのは、三期目が終わる頃。これまでしんどいと感じる場面も多かったけれど、事業への熱量が下がることは一度もありませんでした。

自分の子供たちが社会に対して希望を持てるように、大人が幸せに生きる背中を見せたい。そのために、出産・育児をきっかけに仕事をお辞めになった方々の選択肢を増やしたいという想いで、仲間の支えをもらいながら何とかやってこれたと思います。



取材メモ



チーム名: 句読点/郡山東高校2年
五十嵐 円香

鷺谷恭子さんにインタビューさせていただいた印象は、ちょーカッコいい!一言一言に努力をして来たからこそその説得力があり、私も鷺谷さんみたいな大人になれるように努力したいと思いました。起業家の方のきらきらした部分しか知らなかったけど、大変な一面もお話しいただきました。それだけ大変でも「絶対にやるぞ」という気持ちの強さ、大好きです。福島にもカッコいい大人たくさんいるんだと確信できました。このプロジェクトに参加したから鷺谷さんにインタビューさせていただいたし、一緒に活動する仲間とも出会えました。最高です!

取材をした私が思う「カッコいい大人」とは、
自分の仕事に情熱を持って取り組めて、自分自身の軸をしっかり持っている人。



円香 起業家、母親としての今後の目標を教えてください。

鷺谷さん 弊社の働き方や取り組みについて、色々な場所でお話しさせていただく機会も増えて、他の地域の方にも知っていただけるようになりました。この取り組みを今後もっと広がっていくことが、起業家としての目標です。

母親としては、子供たちが、「年を重ねるのも悪くないな」と思ってもらえるような存在であれたらいいですね。東京に出ちゃうかもしれないけど、「福島に帰ってきたいな」って思えるような母親でいたいなと思います。

円香 どうやったら鷺谷さんのように積極的に行動を起こすことができますか。

鷺谷さん 私の若い時は、自分の中で「もどかしい」と感じながらもなかなか行動できなかった

なんです。今こうやって皆さんは、一步踏み出して学校以外の方、大人の方もそうだし、仲間に出会っていると思うんです。そういうことの積み重ねによって、また新しいチャンスが来る。そこに興味があれば、また一步踏み出してみる。そのうちに積極性が身についてくるような気がします。

円香 鷺谷さんが考える福島の良さを教えてください。

鷺谷さん やっぱり震災はどうしても外せなくて、震災を経験してあの真っ暗になった中で、みんなで光を見つけて、自分なりにできることを探してやってきたっていう同感感はものすごくあります。だからこそ、何か困難にある人達に対して寄り添える優しさも生まれたと思うし、「一緒に頑張ろうよ」って言えるような力強さもより備わったと思います。県内の方だけじゃなくて、福島に思いを持ってきてくださる方々もいい人ばかりが集まっているし、福島って素晴らしい土地だと思います。

鷺谷 恭子さん

f kyoko.washiya.5

<https://www.kaley.co.jp/>





(株)デンヤクリエイティブワークス

田中 聡さん

Satoshi Tanaka

小美野 香帆(以下、香帆) 田中さんはヨークベニマルのあの有名な「♪いち・に・さんのいち」のCM制作に携わったとお聞きしたのですが、具体的にはどのような仕事をされているのですか。

田中さん 仕事内容は一言で言うとうと広告制作です。ヨークベニマルさんのCM制作にも参加させていただきました。それ以外にも、ウェブとか、ホームページ、新聞広告やYouTubeの広告などを作っています。広告というのは、お店や商品の伝えたいことを発信し、お客様に行動してもらうことが目的です。伝える側と伝わる側がハッピーにつながる広告物の制作をしています。

香帆 素敵なお仕事ですね。この仕事をしているときに大切にしていることはなんですか。

田中さん 大切にしていることは、伝える側と伝わる側をよく知ることです。それを知らないと広告は作れません。それと実際に制作に関しては、人との関わり合いは大切ですね。広告は自分だけの力で出来上がるわけじゃなくて、みんなで作っていくものなので、一緒に仕事する人たちを信じ、尊重すること。特にデザインの世界は、常に新しいものを求められているので、自分とは年齢層の違う若い子にもアドバイスもらったりしてます。それもまた楽しいし、大事ななって思います。



香帆 なるほど、年齢関係なく同じものを作るために取り組むんですね。では、この仕事をしているときに、楽しいと感じる瞬間はどんな時ですか。

田中さん 広告の仕事をいただいて、白紙の状況から創り上げていく過程は大変ですが楽しいです。答えのないクリエイティブの旅は仕事の醍醐味でもあります。作品をみんなで作りあげた時の感動や達成感を分かち合えるのも楽しい瞬間です。

香帆 一つ一つ試練をみんなで乗り越えて行くんですね。田中さんは大学に入学する際、浪人したと聞いたのですが、私は浪人と聞くと少し怖く感じてしまいます。浪人することに対して、不安や恐怖のようなものはなかったんですか。

田中さん ありましたね、不安感。でも、東京に行ったら色んな人と出会って、人それぞれの生き



チーム名：句読点／郡山高校2年
小美野 香帆

私は、田中さんへのインタビューを通して、自分の見ていた世界は、まだまだ狭いものだったということに気付かされました。他の人と違うことをするのは怖いことだとどこかで思っている自分がいましたが、世界は広くて、視野を広げてみると色んな人がいて、みんな違って良いんだと自分に自信が持てるようになりました。今の私のように、自分のやりたいことに自信が持てず、不安で悩んでいたりと、人と違うことをするのが怖いと思っているような人達にこの記事を読んでほしいです。自分の強みになるような良い経験になりました。

取材をした私が思う「カッコいい大人」とは、人の為に自分ができていることを考え、笑顔の為に努力できる人。

方に触れるたびに、こうなるべきだと固執してた自分の不安な思いが、たくさん世界があるんだと知ることで楽になれた、あの浪人時代は今思うと、自分の人生においてとっても貴重な時間だったと思います。

香帆 田中さんでも不安に思うことはあるんですね。ありがとうございます。では、田中さんの今後の夢や目標について教えてください。

田中さん 今後も自分のできることで人や地域を元気にしていきたいという思いは変わりません。最近イベント関係の仕事にも少しづつ取り組んでいます。イベントは大変な労力やお金もかかって大変ですが、たくさん笑顔が見えて毎回感動します。広告をつくる仕事はなかなかお客様の顔見れませんからね。なので、もしできるのであれば地域の活性につながるイベントをつくってみたい。国内外、地元の子供たちからお年寄りまで、みんなが楽しめて毎年心待ちにするイベント。自分は裏方に徹するので、

地域の皆さんと一緒に作り上げて、感動を分かち合えたら最高ですね。願わくばカッコいい裏方として活躍したと、家族の中だけでもヒーローになれたら嬉しいです(笑)

香帆 裏方の美学、私も好きです。素敵です。最後に、私達のような高校生に伝えたいことはありますか。

田中さん みんな若いから、ものすごくチャンスっていっぱいあるんじゃないかなと思ってます。それが20代で必ずそこにハマる人もいかもしれないけども、もしダメだとしても、次のステップは必ずあるから、自分の可能性を信じて、今悩んでることはずっと悩んでいて良いと思う。

人生は、色んなサプライズだったり出来事が起こったり、それは次につながるためには必然的なことと、ポジティブに捉え楽しむ。これがやっぱりものすごく大事なことだと思います。友達と会ったり、色々なものを見たり、挑戦したり、刺激や感動をたくさん経験して、楽しいアオハル時間を送ってください!



田中 聡さん
f satoshi.tanaka.3363
<http://www.denya.co.jp/>



郡山市広報広聴課

坂井 俊之さん

Toshiyuki Sakai



土田 紗友莉 (以下、紗友莉) 現在されているお仕事を教えてください。

坂井さん 郡山市役所の職員をしていて、現在は、政策開発部広聴広報課という部署で働いています。広報こおりやまという冊子を毎月作ったり、SNSで郡山市の公式LINEやFacebookを活用して情報発信をしたりしています。広報紙の制作では、『まちが好きになる広報紙』と書いているので、「郡山にこんな素敵な人がいますよ」とか、「面白いプロジェクトをやっていますよ」などの郡山市の魅力を市民の皆さんにお伝えするようにして、郡山市をちょっとでも好きになってもらえたらいいなと思っています。

紗友莉 取材をする際に大切にしていることや印象に残っていることはありますか？

坂井さん 取材の中で、自分が用意していた質問以外でも、意外な話を聞いた時とか、面白そうだなと思った時には、深掘りして聞いてみたりとか、具体的なエピソードを聞くことを心がけています。また、「この方が大切にしているものは何だろう」ということを考えながら取材をすることを意識しています。さらに、インタビューに行くと感心する人ばかりで、取材させて頂く方々が、それぞれ大事にされていることに対して、行動を起こし、具体的な活動に結び付けているというところに、毎回「すごいな」と感じています。

紗友莉 『ほめ達』の講師としてもご活躍されている坂井さんですが、『ほめ達』になって良かったと思う出来事がありましたか？

坂井さん 『ほめ達』とは、「ほめる達人」の略で、褒めることで自分の人生だけではなく、自分に関わる人の人生もより良くしていきましょうということで、「いいとこ探し」なんですよ。



取材メモ



チーム名：句読点／尚志高校2年
土田 紗友莉

緊張されてるのにもかかわらず、笑顔がステキな坂井さん。多くの質問に具体的に分かりやすく答えてくださり、坂井さんのお話に関心が高まっていきました。ほめ達に出会い、ほめ達で得たことを、仕事だけではなく家族においても応用されているところが坂井さんの魅力のひとつだと思います。郡山の魅力である「人」を繋げるような活動をして発展に尽力したいという強い意思を感じ取りました。坂井さんの生き方や価値観は、私が今後の人生を生きていくうえで参考になりました。時折、坂井さんの言葉を思い出して未来へ歩いていきたいです。

取材をした私が思う「かっこいい大人」とは、物事をポジティブに捉えて実現したい目標や未来に向かって努力している人。挨拶や感謝を大切にしている人。

私は、自分に余裕がなく、何事も上手く進まない時があって、特に子どもへの接し方に悩んでいるときに、『ほめ達』に出会いました。私は、ほめ達を通じて、「横で比較するのではなく、縦で比較をする」というのを知ったんです。他人(横)との比較ではなく、当人の成長(縦)で見ると、成長した部分を褒められる。頑張ってる伸びた部分に気づいてあげられるようになり、子どもとの関係が不思議とすごく良くなっていったように思います。

紗友莉 夢や目標はありますか？

坂井さん 私は、郡山の魅力は「人」だと思っているので。「郡山って、面白い活動してる人が沢山いるよね。面白い町だよ。」みたいに言われるようになるといいなと思っています。それができるのもやっぱり、「人」で、私としては、点が線に繋がるように人を繋げる活動や役割をしていきたいです。さらには、ほめ達を必要な人に届けたい。私のようにほめ達で救われる人がいるのであれば力になりたいと思うので、自分ができる範囲でほめ達を広げて行って、「ほめ達を知ることができて良かった」という人を1人でも2人でも増やしていくのが目標ですね。

紗友莉 高校生のうちにやっておいた方がいいことやメッセージはありますか？

坂井さん 「心からやりたい」って思ったことにとんどん飛び込んでみるといいのかなという気がしますね。自分の気持ちに蓋をしないで、上手かどうかわかりませんが、やりたいかどうかで動いていいんじゃないかなって思います。何歳になっても、夢とかやりたいこととか追いかけるので、マイナスなことがあっても囚われずに自分にできること、今の自分にあるものを楽しく活かして頑張ってほしいなと思います。



坂井 俊之さん

[f sakai.toshiyuki.52](https://www.hometatsu.jp/officer/118.html)

<https://www.hometatsu.jp/officer/118.html>



(株)プレイノベーション

菅家 元志さん

Motoshi Kanke

川名 悠輝(以下、悠輝) プレイノベーションという会社は、どんな仕事をしているのか教えてください。

菅家さん 世の中の問題解決を加速しようとしています。世の中には、SDGsに関連するような食糧危機問題や地球環境問題など大きな問題が沢山あるので、一個一個の解決のスピードを上げないと人類も地球も存続できないと思っています。これらの問題を解決するためには、人間とAIの探究力と創造力が解き放たれる必要があると僕は思っています。その上で、弊社は、大きく二つの事業を行なっています。一つは、お客様の会社のビジョンを描いたり、新しいビジネスの立ち上げをお手伝いする探究ソリューション事業。もう一つは、人手不足や生産性向上に悩む会社にデジタルを取り入れるDXソリューション事業です。



悠輝 仕事をする上で一番大切にしていることは何ですか？

坂井さん 僕自身は「日々探究、日々創造」ということを大切にしています。僕のタイプのには、起業家気質なところがあれば、経営者気質、研究者気質なところもあります。例えば、普段から「一日一探究、一日一創造」の実践を心がけていて、昨日とかは、「仕事」と「学び」と「問題解決」と「遊び」の関係性ってこういう感じだろうというのを考えていました。そうやって、問いに向き合っている中で、結構、綺麗にまとまったはずなのに、もう一回ぶっ壊さなきゃいけない時もありますが、それはそれで、楽しいですね(笑)

悠輝 DX化についてどう思いますか？

菅家さん 仕事をする上で、人間がやりたくないところは、AIやロボットがやる状況になればいいですね。そうすることで、人間が新しい価値を生むために、「探究と創造を解き放つ」ということに脳みそを使えるようになると、世の中が良くなると思います。DXによって、仕事を奪われるみたいな側面もあるかもしれないですが、全人類、「日々探究、日々創造」すれば、AIやロボットなどのデジタルと共存していけると思うので、いずれそうなればいいなと思います。

取材メモ



チーム名: 句読点/本宮高校2年

川名 悠輝

このインタビューでは、仕事は選ぶものという固定概念をなくすことができました。また、菅家さんの日々探究、日々創造という考えが、自分は、「考える」ということすらしてこなかったのが素晴らしいと思いました。自分自身、将来何の仕事をやりたいか分からずにいましたが、やりたいこととお金をもらうことと分けて考えたら分かりそうな気がしました。そして、菅家さん以外の方々からも今後に生かすことのできる話や考え方を吸収することができました。今回、働く人にインタビューをするという普通ではできない体験ができて良かったです。

取材をした私が思う「かっこいい大人」とは、自分の未来像がありそれに向かって頑張っている大人。



悠輝 会社設立をした理由やきっかけ、エピソードなどを教えてください。

菅家さん 中高校生の頃から商売や起業には、興味がありました。僕の両親は、会社経営に関わるような仕事をしていて、母親が勤めていた会社で携帯ショップの立ち上げをする際に、僕も少しお手伝いをする中で、新しいことを作ったり、会社を自分でやることは、大変そうだけど楽しそうだなと思いました。そして、大学生の時に、東日本大震災があり、ボランティアをして地元に関わっていましたが、地に足つけて地元の力になりつつ、自分のやりたい起業に挑戦してみようと思い、会社を設立しました。

悠輝 将来、自分のやりたい仕事が多分

いのですが、どうしたらいいでしょうか。

菅家さん 「自分のやりたいことがわからない」という問題は現代における社会問題だと思っていて、僕たちは、みんなに探究してほしいのに「やりたいことがわからない」って言われたら問いがそこで止まってしまうので、とても残念だなと思っています。

人によると思うけど、高校生のうちから、社会のことや仕事のことでみんなにとっては、ちょっと考えにくいことだと思うんだよね。まずは、自分が今「やりたいこと」に取り組んでみればいい。そのうちに、気づいたら人を幸せにしていることもあるかもしれないし、お金を貰えることもあると思います。みんな人と人の間でやりがいや役割が生まれて、色々やっていくとハマったり、やりがいが見つかったりする中で、ふとした瞬間に「これが自分の使命なのか」と思う瞬間があると思うので、あまり1人で考えず、色々な人と関わってほしいと思います。

菅家 元志さん

motoshi.kanke

<https://plainnovation.com/>





美容師
パーソナルトレーナー
本多 洋平/yoheiさん
Yohei Honda

倉兼 愛(以下、愛) 本職の美容師に加えて、なぜトレーナーなどの他の仕事をしてみようと思ったんですか？

yoheiさん 美容師のサロンワークで自然に生まれた会話の中で「美しくになりたい」「痩せたい」というお客様のリアルなニーズを聞きました。ダイエットには自分も興味があったので少しずつ提供していたら、それがトレーナーの仕事になりました。また、仕事の中で「髪を美しく撮る」を追求していくことによりフォトグラファーの仕事もするようになりました。

愛 yoheiさんは習慣化することが得意だと伺ったんですが。

yoheiさん 僕はインスタのストーリーでよく発信をしているので、フォロワーの方に「途中で辞めたと思われたくない」という見栄っ張りな性格が習慣化に繋がったって感じです。心理学や脳科学の論文を読むくらい勉強して、自分以外の方も習慣化できるような仕組みを作っています。

愛 様々な仕事をしている中で自分の個性を殺さないように意識してるってありますか？

yoheiさん 大事なものは右向け右じゃなくて、優れていなくても良いので「他と異なっていること」が大事だなって分かったんですよ。「他と



異なること」を大事に活動していたら「どうやったらyoheiさんみたいに人と違うこと自信满满にできるんですか。」って相談を受けることが増えてきて、今はそんな方々の応援をすることが僕の役目かなって思ってます。

愛 また仕事の話に戻りますが、今までの仕事で楽しかったこと、嬉しかったことってなんですか？

yoheiさん 美容師って切った髪型がその場で仕上がって、リアクションが直後に聞けるので、もうそれが毎日、最上級に嬉しいですね。他の仕事もやっていると人生の中の、大事なイベントに全部僕が関わらせてもらってるっていうのを実感できて嬉しい。例えば、担当していた女の子が彼氏を連れてきてくれたり、そのうちに結婚して結婚式のブライダルのヘアメイクをお願いしますと頼ってくれたり。カメラマンも



チーム名: 亜結之剣/郡山高校2年
倉兼 愛

まず私がこのプロジェクトに参加した理由はあまり明確ではなかったと言っておきます。憧れの高校生になったものの特別に何かするわけでもなく2年生に上がりこのまま不完全燃焼の状態でも高校生活を終わりたいくない、そんな軽い思いで参加させてもらいました。福島に住んでいくけど福島のことを全く知らないスタートでインタビューを通して、福島でも「好き」を仕事に自分らしく生きてる人が沢山いることを知り「福島の人」の魅力に気付かされました。またこのプロジェクトで新しい出会いがあったことがなによりも嬉しかったです。皆大好きー！

取材をした私が思う「カッコいい大人」とは、毎日「自分の好き」を追求して大人としての心の余裕と遊び心を忘れない人。



愛 最後に、もっと増えたらいいなっていう高校生ってどんな人ですか？

yoheiさん 固定概念はなるべく取っ払う。男性だから、女性だからとか、こういう年齢だからって固定概念は必要ないと思ってます。高校生など、まだ自分が確立していない状態の方が固定概念も少なく、選択肢も無限にあると思うんですよ。

高校生のうちは、それが仕事になるかならないか、固定概念はおいておいて、自分がまず「好きかどうか」を一番大事にしてほしいです。

やっているの、マタニティフォトやニューボーンフォト、七五三の撮影も担当させてもらいました。その子が大きくなって頼ってくれたら、下手したら親子2代とか、場合によっては親子3代の人生に関われると思うと感慨深いですね。

愛 美容師じゃなくてフォトグラファーもやって良かったって感じですか？

yoheiさん 髪型だけではもちろん記憶には残るんですけど、それを自分が写真とか動画で撮って編集までしてるので一生残るじゃないですか。髪の毛染めても結局落ちちゃうのでその瞬間限定なんですけど、それはフォトグラファーまでやってるからこそずっと残せてすごい楽しいですよ。楽しいってうか嬉しい。体力的には疲れることが多少あったとしても、も、やることが楽しい。



本多洋平/yoheiさん
f honda.yohei
<https://beauty.hotpepper.jp/slnH000394550/>



(株)banks
福島木桶プロジェクト

長谷川 大輔さん

Daisuke Hasegawa

松井 瑠南(以下、瑠南) なぜ家づくりの仕事に就いたのですか？

長谷川さん もともと、今とは違うものづくり系の仕事をしていたのですが、震災を機に福島に戻ってきたのがきっかけですね。福島に戻ってきて勤めた会社が、たまたま家や家具をつくる会社だったので、一から勉強させてもらい、独立しました。

瑠南 家づくりをする中で、「福島の木材」にこだわる理由は何ですか？

長谷川さん 誰が作ったか分からないものと、この人が丁寧に作りましたよっていうものと、どっちが安心できますか？家の場合は特に、「地元の木材を使っています」という方が安心できると思うんです。

瑠南 見た目だけでなく、中身にもこだわって作っているのですか？

長谷川さん はい。私たちは地元の良い素材を調達して加工するのが得意なので、中身にもかなりこだわりを持っています。見た目にもこだわりたい会社さんは世の中に溢れちゃってるので、見た目と中身、どちらにもこだわりを持って家づくりをしています。

瑠南 特にこだわっていることはありますか？

長谷川さん 無垢材にこだわっています。

東京など、人がたくさん住んでいる地域だと何百万とか何千万とたくさん家づくりが必要なのでどうしても安定した形をキープできる素材が必要になるんですね。一方で、福島だと人口が東京などに比べて少ないのでそんなにたくさん家を作る必要もないと。

せっかく、福島のような自然豊かな地域に住んでいるし、福島で東京みたいな暮らしをしてみようがないんだから、無垢材などの自然のものに囲まれながら暮らしたほうがいいんじゃないかと思ってます。



取材メモ



チーム名: 亜結之剣 / 郡山東高校2年
松井 瑠南

建築会社、BANKSの長谷川さんのところにお邪魔して、地元の良さをどう伝えていくのが良いのかという視点を絡めてインタビューをさせていただきました。私は多くの人に知ってもらうのが要であると思いましたが、これは柔軟な発想ではありませんでした。熟成させたほうが面白いと聞いてから、東京みたいなことをするのはなく、ここでしか出来ないことに気づいてどれだけ唯一無二のことを目指せるの方が大切なんだと思うようになりました。これからの進路で知らないことを分野的に深めていきたいです。

**取材をした私が思う「かっこいい大人」とは、
自分のもつ世界観を個性として活かしている、オープンな人。**



分にとってベストな場所なのかっていうこととはイコールではないと思いますね。

瑠南 福島県外の方にも積極的に家づくりのご提案はされているんですか？

長谷川さん 県外へのPRはあまり積極的には行っていません。

良いものは、たくさん広まるんじゃないかと、なるべく広がらずに長い時間をかけて少しずつ熟成させた方がいいんじゃないかと思っています。広告などは出さずに自然な形で知ってもらえればいいなと。

瑠南 今、何か新しく挑戦していることはありますか？

長谷川さん これまで捨てられてしまっていた会津の馬の尻尾の毛をクッション材にして、ベーシックだけどトップグレードなベッドマットレスを作っています。僕らができることの軸はそのまま曲げずに、できることやっていきたいなと思っています。

瑠南 地元を大切にされている長谷川さんから見て、若い世代も地元愛を持つべきだと思いますか？

長谷川さん 僕自身、外に出て変わったこともあったし、自分のアンテナの精度とか世界観がやっぱり地元のフレームの中に収まっちゃうので、地元を出ることは悪いことではないと思います。たまたまその場所で生まれて、過ごすから愛着は湧くと思うんですけど、その愛着は自

長谷川 大輔さん

[f daisuke.hasegawa.902](https://banks.house/)
<https://banks.house/>





NPO法人ソーシャルデザインワークス
ソーシャルワーカー 社会福祉士

渡邊 奈南さん

Nana Watanabe



佐藤 結輝(以下、結輝) ソーシャルワーカーとは、どのようなお仕事ですか？

渡邊さん ソーシャルワーカーは、生活する上で何らかの困りごとがある方の相談に乗りながら、そのひとの力を十分に発揮できる環境を整えるサポートをしたり、社会に向けて働きかけを行ったりします。人と、人や社会、制度をつなぐ支援を行っています。

結輝 この仕事に就こうと思ったきっかけを教えてください。

渡邊さん 一つは、幼稚園の時に同じクラスにいた障害をもつ子との出会いです。他の子からからかわれている姿をみて、モヤモヤする気持ちになりました。

祖父母と同居していたこともあり、高齢分野にも興味があったため、福祉系大学へ進学しました。講義の中で、「ある国では遠くの獲物を捕まえて、食べて、生命を維持していくために視力がとても良い。日本人の視力では、その国で獲物を捕まえられず生きるのが困難になる。皆、“障害者”になる。」という話を聞き、今の環境ではいわゆる“健常者”の自分も、環境が変われば“障害者”になる。「しょうがい」はその人にあるというより、環境や社会、またその関わり合いの中で生まれているのだなと思いました。

そこから、人と社会に働きかけるソーシャルワーカーという仕事があると知り、目指し始めました。

結輝 病院勤務から、就労支援の「SOCIAL SQUARE郡山」に転職した理由はなんですか。

渡邊さん 病院勤務時代に、患者さんとの関わりの中で、病気や障害を理由に偏見や差別をされたり、社会から排除される機会の多さを目の当たりにしてきました。それらや、生活の中での困りごとの多くは、個人の問題ではなく、社会側の問題なんじゃないかと思うところがありました。誰もが、尊重され、生きていきたいと思える社会にしたい、社会を変え

取材メモ



チーム名: 亜結之剣 / 尚志高校2年
佐藤 結輝

今回、インタビューや記事作りを通して、とても大変だったなと思いました。インタビューでは、緊張して自分が思ったようなインタビューがあまりできなかったです。記事作りでは、録音を全部文字起こして、切り取る部分を見つけるのが難しかったです。でも、それ以上に学んだことがたくさんありました。普段聴くことができないことを知ることができただけでなく、インタビューや記事作りの面白さを感じることができました。いい経験ができて良かったです。

取材をした私が思う「カッコいい大人」とは、仕事も家庭も充実していて、自分の務めを全うしている人。そして、周りから信頼されている人。

ていきたいという思いがありました。そこで、NPO法人ソーシャルデザインワークスの「諦めない社会をつくる」という理念に共感し、ここで働きたいと思いました。

結輝 仕事をする上で大切にしていることはなんですか。

渡邊さん 相手の話をよく聞きながら、その人自身だけでなくその人の周りの環境、家族、社会、学校、いろんな繋がりの中で、どこで生きづらさが生まれているのか、その上でどこにアプローチする必要があるのかを考えています。また、その人に対してなにかジャッジをするのではなく、その人がどういう状況に置かれているか、ありのままを受け止める。わかったつもりにならない。全てはわからなくても、少しでもわかりたいと思いながら話を聞き、その人に寄り添うことを意識しています。そのようにして、人と信頼関係を築いていくこと、それを大切にしています。

結輝 どういうところで障がい者への偏見や差別が生まれると思いますか。

渡邊さん 「知らないこと」が偏見につながり、差別を生むことがあると思っています。小さい頃は一緒に遊ぶ機会があっても、小学校中学校と歳があがるにつれて交わる機会がなくなっていく。身近にいない、普段関わりがないことで、どう接して良いかわからないことがあるのかなど。就労支援の場面でも、障害者雇用というだけで「どう接したら良いかわからない」という声を聞くことがあります。今の職場では、就労支援とともに「ごちゃまぜまちづくり」というものを行っています。障がいの有無、年齢、国籍、性的指向、属性に関わらず、みんな一緒にごちゃまぜで楽しいことをしたり、学んだり。自然な交わる場をつくり、互いを知り、自分と同じこと・違うことを認め合いながら、少しでも「知らないこと」による偏見や差別をなくしたいと思っています。



渡邊 奈南さん

[f nana.kubota.1042](https://socialsquare.life/crew_list/nana-watanabe/)

https://socialsquare.life/crew_list/nana-watanabe/



助産師

相樂 育美さん

Ikumi Sagara

須藤 希海(以下、希海) 助産師の仕事について教えてください。

相樂さん 助産師って看護師の資格を取った後にもう一つ、助産師としての国家資格を取るの、助産師と看護師を両立した働き方も可能なんですね。主に皆さんが思う助産師の仕事って、出産のときのお手伝いというイメージがすごく多いのかなって思います。しかし実はそれってすごく一部で、人が生まれた時から亡くなるまでのライフステージにおいて、あらゆる形で助産師が関わっているって感じる場面があるんです。生まれた時からの赤ちゃんの成長だとか、思春期になってからの性のこととか、本当に幅広くありますね。魅力たっぷりの仕事です。

希海 助産師になってよかったと思うことはありますか。

相樂さん やっぱりこの仕事は魅力的だなんて、本当に日々思ってるんです。私は「この仕事が純粋に大好きだ」って思っていて、自分で勝手に使命って感じています。これからどうなるのかなって毎日すごくワクワクしていますし、まだまだ伸び代があるって思ってます。「ここまでしかできない」っていうライン付けをせずに挑戦していきたいですね！

希海 やめたいと思ったことってないんですか？

相樂さん あります。働いて10年目に看護師長という役職に就いたんですが、私はそういう役職を担うのが苦手です……。ストレスで精神を病んでしまって、一時は仕事から離れて自宅で療養していた期間もありました。その後、家族のサポートと応援のおかげで回復し、病院に「出来るだけ役職に就かせないでほしい」と交渉して現場に復帰。決められた枠の中で堅い役職に身を置くのは苦手ですが、やっぱりこの仕事自体は大好きなんですよね。



取材メモ



チーム名:パズル/須賀川桐陽高校2年
須藤 希海

私は今回のインタビューで、自分のこれからの道の視野を広げることができました。自分の夢でもある助産師という資格を持っている育美さんにお話を聞けたことをとてもうれしく思います。今までに知らなかった仕事内容を聞くことができて勉強になった部分も多々あり、振り返るとなんて有意義な時間だったんだろうという気持ちでいっぱいです。私も将来育美さんのように自分の仕事に誇りをもって、心から大好きといえるようになりたいです。この記事は、育美さんの高校生に向けたメッセージもあるので、夢を持つ高校生にぜひ読んで貰いたいという気持ちを込めて書かせていただきました。

取材をした私が思う「カッコいい大人」とは、高校生に夢を与えてくれる人。



希海 これから助産所をつくるとお聞きしたのですが、そこはどんな助産所にしていきますか？

相樂さん 助産師になりたいという志を持つ人たちが夢を感じてくれるような、「助産師ってこんな働き方もしていいんだ」「こんな働き方もできるんだ」って思えるような場所を作りたいって思いますね。利用する方たちは女性だけをターゲットにするのではなくて、旦那さんやご家族の方も対象にした施設を作りたいんです。イメージとしては、色々な人が行き交う場所。もちろん子供さんたちも、学校帰りに「ちょっとトイレ貸してください」みたいにふらっと立ち寄ってもらえるのもいいかなって思うのね。色々な人、老若男女がふらっと来られる

感じの助産所にしたいなと思っています。

希海 高校生のうちにやっておいた方がいいことや、伝えたいことはありますか。

相樂さん 色々な大人の人と出会っていただきたいなって思いますね。友達や先輩後輩、若者同士の出会いもすごく貴重だと思うので、その出会う場を私たちは考えていかなければいけないって思っています。あとは、ぜひ色々なことを経験してほしいです。やりたいと思ったら、やってみたらいい。結果なんてわからないですしね。やりたいって今の気持ちがあるなら、そこに向かって行っていいと思う。途中でなにか事情があって続けられなくなったり、「自分には違う道の方が向いてたな」って思ったりしたら、もう一度、次のところに挑戦すればいいと思っています。どんな時も、「やりたい!」と思ったことは怖がらずにどんどん挑戦してってください。皆さんには枠に当てはめずにどんどん伸びやかに動いて、色々なものを見て、自分が感じられるものっていうのをすごく大事にしてほしいですね。

相樂 育美さん

f mw.ikumi



公認心理師
社会福祉士

渡邊 直子さん

Naoko Watanabe

渡部 瑞希(以下、瑞希) お仕事について教えてください。

渡邊さん 今は個人で社会福祉士事務所を営んでいます。資格としては、社会福祉士や公認心理師、精神保健福祉士、保育士などを持っています。これらの資格は全て、働いてから取得した資格です。働いてから仕事に必要な勉強をしなければいけないなと思い、資格を取り始めました。個人事務所をつくらうと思った理由は、制度の狭間にいる人がすごく多いということに気づいたからです。例えば、介護保険制度などいろいろな制度がありますが、社会にはこうした制度を利用できる人ばかりではなく、「利用したくても利用できない」という人も沢山いるのです。そういう人たちが福祉の仕事を通して私の裁量や、アイデアで支えていきたいと思っています。

瑞希 この仕事のやりがいや魅力はありますか。

渡邊さん 人と会って話をしていると、自分も成長できるというところですかね。色んな人に会って、教えてもらって、それを自分なりに「考える」っていうことを経験させてもらってきました。「考える」ことをすると「気持ち」も変わるし、「気持ち」が変われば「行動」が変わってくるんです。こうしてだんだん私自身も成長できたかなと感じています。しかし、難しいこともあります。「これをやったら間違いない」や、「これをしたら幸せになれる」というものは何1つないし、それは誰にもわかりません。

その正解を知っているとすれば、それは相談者の方本人だけです。その正解を対話を通して、聞き出してあげるんです。社会福祉士とはなんですかと聞かれたら、私はよく「代弁者」と答えています。その人の声にならない気持ちというのを拾って、引き出してあげるのが社会福祉士の仕事じゃないかなと思います。

瑞希 これからの夢や目標はありますか。

渡邊さん あと40年は生きて考えて、40年で何ができるだろうとよく考えます。とても漠然としていますが、障害がある方も、



取材メモ



チーム名:パズル/日本大学東北高校1年
渡部 瑞希

他の学校の方や大人の方と意見を交換したり、インタビューや記事ライティングをしたことなど私にとって初めての経験ばかりでとても新鮮でした。特に印象に残っているのはインタビューです。トップバッターだったので、とても緊張して言葉が全て頭からとんでいったり、うまく考えがまとまらなかったことがあり、もっと自分を成長させたいと思うようになりました。また、お話をしてくださった方々が皆、お仕事や人生が楽しそうだったことも印象に残っています。将来自分が楽しいと思えるような仕事に就くことが目標の一つになりました。

取材をした私が思う「カッコいい大人」とは、生き生きとしていて、笑顔が溢れている人。



人間も葦と同様に弱々しい存在なのだけれど、人間は葦とは異なり、考えることができます。「考えることができるから素晴らしいんだ」という意味なんです。

せっかかもらった一度きりの人生なので、後悔のないようによく考えて、今自分が何をしたいのか自分の気持ちに問いかけて、充実した納得のいく人生をこれから歩んでいってほしいです。

しっかりと適正な賃金をもらえるようにサポートする会社にできたらいいなと思っています。あとは、社会福祉士の人材育成に力を入れています。

瑞希 高校生にメッセージをお願いします。

渡邊さん もっと色々なことに興味を持ってください。どんなことでもいいんです。例えば、学校帰りにどんな道があるか探検するでもいいし、好きな食べ物のごと、隣の人の観察でもなんでもいいので、やり遂げたという達成感を得られるといいと思います。考えるのをやめず、ぜひ一生懸命考えてほしいです。

また、フランスの学者パスカルさんが『人間は考える葦である』ということをしていました。葦は水辺に立っている弱々しい植物です。



渡邊 直子さん

[f naokodanuki](https://liii-ju.com/)
<https://liii-ju.com/>





(株)tentoTen
(株)オーダーメイドジャパン

遠藤 孝行さん

Takayuki Endo

壁谷沢 知哉(以下、知哉) 現在されているお仕事の内容はなんですか。

遠藤さん メインはエンジニアという仕事をしています。エンジニアとは、WEBサイトやITサービスのプログラムを作る仕事です。現在は、東京のIT企業の開発チームに混ざって仕事をしています。この仕事で収入を得て、その資金を猪苗代町を中心とした福島県内に事業投資をしています。具体的には、郡山駅近くに「シーシャ」と呼ばれる水たばこを提供するカフェ「e.n」や、猪苗代町ではシェアキッチンの運営や廃校を活用した複合施設「Roots猪苗代」の立ち上げに携わってきました。

知哉 仕事をするとときに、大切にされていることはありますか。

遠藤さん 僕には、働く上や人生の中で大切にしているベースが3つあります。

1つ目が生きていけること。社会的に意義のあることをやるうとしても、自分の生活が十分に成り立たないようでは意味がないと思うので、まずベースとして生きていけること。2つ目が社会性ですね。社会性の低いものはやりたくない、社会性の高いものをやりたいという想いが強いです。3つ目が好奇心ですね。その地域で本当に必要とされているものなのか。実際に、



地域のために新しく事業を立ち上げた時、そこに人が来てくれたら、「これは本当に地域から必要とされていたんだな」と実感できます。

知哉 様々な仕事をやるきっかけとなった出来事がありますか。

遠藤さん きっかけは完全に3.11ですね。当時関東に住んでいた大学1年生の時、東日本大震災がありました。そして震災から2年経った2013年から約1年間、カナダに留学へ行くことに。カナダにいた時、福島ニュースとかめっちゃ流れてましたし、心配されることが多かったです。ただ僕自身は関東にいましたし、その当時福島に対して何もできていませんでした。その当時、何もできなかったというのがずっとモヤモヤしていました。でもこのまま帰っても何の役にも立たないというのはわかっていたので、福島に貢献できるスキルを身に付けてから

取材メモ



チーム名:パズル/尚志高校2年
壁谷沢 知哉

今回遠藤さんのお話を聞いて得るものがたくさんありました。僕はエンジニアという仕事について全く知らなかったのですが、身近にあるものに関わっていて興味がわきました。特に、話の中でこれから挑戦することがアメリカに行くことなのが驚きで、印象に残っています。僕にとって国外に行って会社を作ることは、中々行動にだせないことだと思ったので感銘を受けました。遠藤さんのような人に近づくために、小さなことからでも挑戦していきたいです。

**取材をした私が思う「カッコいい大人」とは、
失敗を恐れずに挑戦し続けて、さらなる高みを目指す人。**

帰ろうと決意。大学卒業後、東京のIT企業に勤めてエンジニアのスキルを磨いた上で、福島に帰ってきました。その後はエンジニアとして資金を稼ぎながら、それを元手に福島を盛り上げる様々な仕事に挑戦しています。

知哉 これから挑戦することはありますか。

遠藤さん 来年の7月に、アメリカのニューヨークでシステム開発を行う会社を作ろうと準備を進めています。アメリカから開発の仕事は沢山引張ってきて、それを日本側のエンジニアが手掛けるという流れを作りたいと思っています。これに何のメリットがあるかという点、アメリカと日本では、仕事の単価が全く異なるのです。日本よりも高単価のアメリカから仕事を受けた時、日本で開発をすることで利益がより多く生まれるようになります。

この利益を福島に関わることに事業投資していくというような考えがあります。

そのため、7月にアメリカに行って会社を設立するというのが直近の挑戦ですね。

知哉 これからの福島に期待していることはありますか。

遠藤さん 若い人にどんどん挑戦して欲しいですね。「若い＝何でもできる」とよく耳にしますが、別に最初はお金がないっていいんです。お金は後からついてくるものなので、まずは自分がやりたいと思ったことにとりあえず挑戦してみましょう。

その結果、お金がマイナスになったとしてもいいんです。自分の中に経験や知識としての財産は残っているので、挑戦を通してお金が減ったとしても、自分自身は磨かれているからプラスだと、僕はそう思っています。

ただ、中途半端にしてしまうと、何も自分のためにならないので、やると決めたら全力で!この心構えを大切にしています。



遠藤 孝行さん

f takayuki.endo15

<https://lit.link/takayuki15>



Z世代活躍係メンバーからのメッセージ

Message



郡山市政策開発課
Z世代活躍係 係長
岩浪 正人

このプロジェクトは非日常的な取材を通じて、地域にある魅力的な仕事や人に触れ、高校生が社会と出会い自身の興味や将来を考える機会を創出しています。

私たちZ世代活躍係は、そんな皆さんの興味や将来に向けた様々な「やりたいこと」を一緒に考え実現していきますので、気兼ねなく声をかけてみてください。



郡山市政策開発課
Z世代活躍係
松本 ちひろ

今回参加された皆さんには、自身の関心と地元をつなげて、取材での気付きを言語化する経験や、大人や仲間との出会いがあったと思います。経験や出会いが人を成長させ、やりたいことを見つけることにつながっていきます。このプロジェクトがその一つとなり、今後に活かせるものになっていれば本望です。



郡山市政策開発課
Z世代活躍係
風張 達也

今回のわかものボーダレスプロジェクトでは地元の魅力ある大人たちに触れてもらいました。このプロジェクトを通して参加者のみんなには地域との結びつきを深めてもらいつつ、自分自身の将来を考えるきっかけになったのではないかと思います。みんなの未来の選択肢の一つを作る手助けができたのであればうれしい限りです。

わかものボーダレスプロジェクト
📷 公式インスタグラム
@wakamono_borderless



郡山市公式ウェブサイトから、
これまでの活動内容も
ご覧いただけます



カッコいい大人、いました（こおりやま広域圏わかものボーダレスプロジェクト2023） [発行日]2024年1月15日

[発行所]郡山市政策開発課 Z世代活躍係
〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23-7
TEL:024-924-2021 FAX:024-924-2822

[編集部] 五十嵐円香 小美野香帆 土田紗友莉 川名悠輝
倉兼愛 松井瑠南 佐藤結輝
須藤希海 渡部瑞希 壁谷沢知哉

[発行者]わかものボーダレスプロジェクト
[編集]株式会社エフライブ
〒963-8811 福島県郡山市方八町2-8-16 f life base

[編集サポート] 小笠原隼人 大川翔 宗近翼 滝口杏
[アートディレクション&デザイン] 佐久間香織